

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772800470	
法人名	株式会社 太郎	
事業所名	グループホーム ひよりの里	
所在地	福島県西白河郡西郷村小田倉字大平103-7	
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年2月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は出勤時に利用者様一人ひとりのお名前を言いながら、笑顔で挨拶をしています。また職員同士の挨拶も明るく元気に行いその日の勤務に入ります。利用者様が笑顔で楽しく過ごせるように、また職員も共に楽しみ、教えて頂く姿勢を大切にしながら日々のケアの提供をしています。春はお花見、夏は納涼祭、秋には紅葉狩り、そして冬は中庭にイルミネーションを飾り、その合間にも沢山の行事で季節の食事や懐かしい雰囲気を感じて頂けるように工夫しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者をよく知ることや利用者のサインを見逃さないことを職員全員が心掛けていて、心の通う寄り添うケアの実践がなされている。  
職員の気づきは改善提案ポイントとして評価され、働く意欲や利用者のより良い暮らしに向けて活かされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで運営理念を唱和し、またユニット毎の理念も作り、毎日の介護に活かしています。	事業所の理念が具体的な言葉で表現され、職員全体で毎朝確認している。その理念のもとにユニットごとの毎月の目標が立てられ全員が共有している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年開催する納涼祭に地域の皆様を招待し、また職場体験学習の受け入れなどで、利用者様職員共に交流を図っています。	事業所が主催する納涼祭は地域に定着し、参加をきっかけに地域の人達から積極的にあいさつをしてくれるなどつながりが深まっている。公民館主催のいきいきサロンに利用者も地域住民の一員として参加し、ふれあいの機会になっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が民家に迷い込んだなど、当施設に連絡を下さり、そのような機会などに声かけや誘導の方法をお伝えしています。また早々にご自宅に戻れるよう支援しています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、役場、ご家族に参加頂き、定期的に報告相談し、意見を伺い、より良いサービス提供に活かしています。	会議では、事業所からの報告と行事への案内などを行っている。外出支援に関する計画では、場所の情報提供があるなど一緒に検討し、双方向の会議になっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	勉強会などに参加し、市町村から情報を頂きながらケアサービスに取り組んでいます。	研修会に参加し制度的な内容に関する情報の提供を受けるなど、身近に相談できる関係であり、連携も深めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束禁止行為を理解しており、玄関の施錠は夜間帯以外は行っていません。また「何々しないでください」など、言葉での行動抑制もしてはいけない事と理解しています。常に身体拘束のないケアを話し合い、利用者様の支援に活かしています。	転倒の危険の多い人への対応を職員全体で考えて、靴やベッドに鈴をつけ動きを早期に発見する工夫をして安全で自由な暮らしが出来るように配慮している。キメ細かく観察し、死角になっている部分には鏡をつけるなどの工夫により身体拘束をしないケアに努めている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	顔色、普段とは違った行動などを把握し、入浴時には痣の有無などの確認を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のマニュアルを作成し、職員それぞれが常に学べるようにし、また会議の場で勉強会を開きました。既にこの制度を利用されている方もいらっしゃいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様やご家族に向け、重要事項説明書及び利用契約書を読み上げ、説明を行っています。改定などのさいは、文書でお伺いをたて、不明や疑問などがあった場合は、十分な説明にてご理解頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱と用紙を設け、面会時にいつでも投書して頂けるようにしています。また口頭での要望も多いので、都度話し合いをして、ご希望に添えるよう努めています。	投書がないから要望がないとは思わずに、家族が発した何気ない言葉から要望を汲み取るように配慮している。家族が面会時に「補聴器の電池を置いておく」という言葉から補聴器を使ってほしいという思いを察し、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議全体会議の中で、職員の意見や提案が話しあわれ、また管理者と職員の会話の中でも提案があり、優れた提案は運営に反映されます。	ユニット会議を月1回行い意見を聞くようにしている。代表者、管理者を含めた全体会議を年4回開き職員は一人一言必ず話すようにしている。現場の生の声を聴くことにより代表者の理解が深まり身近な存在となっている。職員の提案が活かされることで、働く意欲や質の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年忘年会に、その年の優秀賞、努力賞などの表彰で、賞品が授与されます。また様々な提案があり、反映された場合はポイント加算され、ポイントが溜まると給与に反映します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、一般職員研修その他の研修に参加しています。また新人は先輩職員からマンツーマンで学べるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や施設見学での訪問など、その施設での取り組みなどを会議で話しあい、質の向上に繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心配事や考えなどを傾聴し、穏やかな暮らしの提供に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	雑談しながらリラックスして頂く中で、ご要望などを伺えるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望ご家族の要望が、施設として提供できるか、プロの目から見て適切かどうかを考慮し、意見をだしながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介護するのではなく、「教えて頂く」と言う場面を多く作れるよう心がけています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や要望をご家族への毎月の手紙で報告しています。また電話や面会時にも、意見交換をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や友人と外出をされています。また知り合いや親戚宅をご家族の協力にて訪問され、職員との外出時には懐かしい場所に立ち寄ることもあります。	月1回は職員と、なじみの定食屋、ラーメン屋に外出に出かけ地域社会との関わりを継続している。友人と外出する人もいるなど、なじみの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	悩み事や心配事を話したり、聞いたり、お互いの体調を心配する姿が毎日見られます。また関わりがあまり得意ではない方には無理な促しをせず、職員が関わる時間を持ち、お手伝いなどをして頂きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が来所して下さる事もあるので、今現在の状況をお伺いしています。また困り事があればいつでも相談に応じます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から、本人のしたい事考えている事を把握できるよう、言動行動などを記録し、職員間で共有しています。困難な方には危険が生じないように付き添いながら自由に行動して頂いています。	日々の係わりの中で、本人が発した言葉を記録し職員会議に提案し、解釈を出し合う中で本人の真の思いの把握に努めている。特に本音が出やすい入浴の場面を利用し、意図的に真意を確認する係わりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査やバックグラウンド、本人やご家族の話から生活歴やこれまでの生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、体調変化、できる事など、日々の会話や動作の観察、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員間で情報交換、共有する事でより多面的な視点で捉え、プランの作成をしています。	本人の担当の職員を中心に日頃の生活の様子を記録し、職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。その結果を介護計画に反映させている。その人の楽しみや役割、生きがいを大事な視点にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに添ったケアを実践し、状況を記録しています。それぞれの職員が気づいたことなどを記録に残すことにより、次のプランやサービスに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて、新しいケアサービスを取り入れるなど、柔軟な支援が出来るように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室へ行き、髪をカットして頂きながら世間話をしたり、近所の飲食店で外食を楽しんでいたなど、日々の暮らしに取り入れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度、往診に来て頂いています。また利用者様の体調の変化により、都度連絡を取り、アドバイスをいただいたり、また受診時に協力をいただいています。	家族の希望を確認しながら、事業所の協力医をかかりつけ医として、月1回訪問診療に来てもらっている。必要に応じて、受診支援や紹介状により適切な医療が受けられるように医療機関と関係を密に結んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員から利用者様の状態変化の報告を受けており、状況に応じて受診などの支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーなどで情報提供しています。早期退院実現のために、医療機関との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・ご家族を交え、終末期に事業所で出来ることの説明を行っています。また、終末期を迎えた場合は、主治医の協力を得て支援しています。	これまで看取りの経験がなくスタッフの心理的負担は大きいと思われる。現在希望する家族があるので、終末期の在り方について家族の意向を踏まえ、研修や話し合いを重ねてどう支えていけるか取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、応急手当などの訓練を行いました。また、看護師による勉強会やマニュアルで知識を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、昼夜の設定をして、避難訓練を行っています。他年1回、消防隊員指導のもと防災訓練を実施しています。	毎月利用者と共に避難訓練を行って、すべての職員が対応できるようにしている。緊急時の避難に備えた訓練も行っている。年1回は消防署の協力を経て防災訓練を行い、近隣の人の参加協力も数回得られており地域の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけることのない言葉遣いに努めています。プライバシーに関わることについては、他者に悟られぬようさりげない言葉掛けを行っています。	誘導の声かけは「トイレ」とは言わずに、「手伝ってもらいたいことがある」などと本人を傷つけない言葉かけに配慮している。スタッフ間で利用者の情報を確認するときにはイニシャルを使って話す等プライバシーを損ねないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「はい・いいえ」などで答えられる質問や、興味がありそうな話から思いが表せるよう工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にすることを心がけていますが、その時々によりご希望に添えない場合もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んでいただき、時にはスカーフやカチューシャなどをされています。外出時、女性の方であれば、お化粧や髪型に気を配りオシャレを楽しんでいただいています。男性には、髭剃りや整髪なども促しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、配膳、盛りつけや味見をしていただいています。偏食がちな方にはお好きな食べ物を把握し提供しています。誕生日には食べたいものを伺い、特別メニューでお祝いしています。	その日のメニューを利用者と相談して決めて食事の準備も一緒に行っている。男性の役割は「いただきます」の発声や片づけで、一緒に楽しく食べる雰囲気づくりや役割を持つ喜びが実践されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎回記録しています。食事量が少ない場合は他の食べ物を提供し、水分はお茶の他、好みの飲み物で摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、週1度薬品による義歯洗浄を行っています。こまめに口腔内観察をし、その時の状態に応じて歯科医と連絡を取り、受診（往診など）をしています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録によるデータをもとにトイレの声かけ誘導をまめに行い、できるだけ失敗のないよう支援しています。	排泄パターンを把握してトイレでの排泄を大事にしているため、日中はおむつの使用者はいない。夜のみオムツ使用者が2名いるが、どういつ時間帯にどういつものを使用するか根拠を明らかにして支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を豊富に取り入れ、食物繊維の摂取に努めています。毎日10時には体操後に牛乳を提供し、便秘がちな方には腹部マッサージを行っています。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には前日入浴されていない方が優先になりますが、個々の入浴日は決めておらず、毎日入浴される方もいらっしゃいます。入浴の有無は本人の意向を伺い、拒まれることが多い方には、会話をしながらタイミングをみて入浴して頂いています。	毎日入りたい人、午前中ゆっくり入りたい人、女性のスタッフがいない人など、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて入浴支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中疲労が見られるなどの時は休息の促しをしていますが、ほとんどの方は自ら休息をとられます。夜間帯はほぼ安眠が保たれており、不眠の場合は夜勤者と会話する事で安心して休まれています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は内服薬の内容を理解し、不明な点は医師、看護師に確認しています。内服管理表を作成し飲み忘れのないよう支援し、また早期体調変化の気づきに努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れ・縫い物・歌・掃除・家事など、それぞれが得意とする事を日常の関わりの中から把握し、楽しみや喜びに繋がるよう支援しています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話から本人の希望や思いを伺い、外食やドライブに出かけています。ご家族と毎週お出かけする方もいらっしゃいます。	新聞の情報で得た場所に行ったり、昔なじみの店に行ったりなど利用者の思いに添いながら、積極的に外出支援をしている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金を所持されている方もいらっしゃいますが、ほとんどのの方が難しい状態にあり、お金の心配をされる方の不安を解消し安心して頂く事に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に職員が付き添い電話をしたり、また年賀状など季節の手紙が出せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは一定の温度が保たれ、テーブルには花を飾ります。特に強い光などはなく、温かみのある電灯を使用しており、不快感のある音や声に対してはその都度配慮しています。	玄関やホールのテーブルに花が飾られて心地よく過ごせる空間づくりがされている。ケアコールの音を低くしたり耳の遠い方への話し声を気遣うなどして、共有空間を流れる音や不快な刺激に配慮し穏やかに過ごせるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置の一角があり利用者様同士お話をされたり、時には休息もされます。地区の公園が隣接しており、一人静かに眺める姿も見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	使い慣れた家具を持ち込まれている方もいらっしゃいます。ご家族の写真や、職員が手作りの誕生会の色紙を飾ったり、好きな花鉢を置いたりされています。	居室は利用者のなじみの品物が置かれ、自宅とのギャップを感じさせずその人らしく暮らせる部屋となっている。猫の好きな人は、カレンダー、絵、茶碗、湯呑みなどが可愛い猫で埋まっていて落ち着いて過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を下げ、自室がわかりづらい場合は、大きめの表札で対応しています。手すりを多く配置しており、安全な自立歩行に役だっています。		